

ポルトガルの旅③

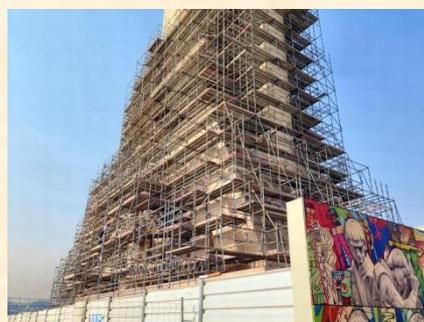
8月9日

今日は実質的には最終日だ。リスボンの見どころを訪れる。

世界遺産「リスボンのジェロニモス修道院とベレンの塔」。まずテージョ河に面したベレンの塔へ行く。インド航路開拓を記念して建てられたが、要塞としての役割も果たした。ポルトガルが大国としての道を歩み始め、大陸間交易という新時代の幕を開いた証拠としての価値が評価されている。



続いて、発見のモニュメントに行くが、ここが何と全体が修復中で全く見る事が出来ず、期待外れだった。



気を取り直して、ジェロニモス修道院へ足を運ぶ。ここはマヌエル1世が、エンリケ航海王子の偉業とヴァスコ・ダ・ガ

マの功績を称えて建てられた。歴代国王の霊廟にもなっており、内部には中庭を囲む回廊があり、マヌエル方式で装飾されている。また南門上部中央には、エンリケ航海王子の像が飾られ、タンパンには聖ヒエロニムス(ジェロニモ)の生涯が描かれている。思った以上に立派な大きな規模の修道院だった。





ジェロニモス修道院の後、サン・ロケ修道院を訪れる。ここはマヌエル方式の美しい豪華な内装だった。サン・ロケ（ラテン語聖ロクス）の原型となる礼拝堂は、16世紀初頭に建てられた。聖ロクスは黒死病から信者を守ってくれると信じられていたようだ。



入り口近くにあった像を何気なく撮ったら、後日フランシスコ・ザビエルのお墓だと世界遺産クラブのメンバーから教わった。

その後、町歩きを楽しんでいたが、ポルトガルの名物トラムが狭い路地のようなところも走っているのには驚いた。何か派手なトラムも坂を往復していた。



リスボンでも最も古い地区であるアルファマ地区を散策する。サン・ジョルジェ城からテージョ川にかけ南斜面に広がっている。地区の名称はアラビア語が語源で、泉や浴場を意味するようだ。

サン・ペドロ・デ・アルカンタラ展望台からは町が一望できた。



この日午後は、ケルス宮殿を観光した。ここはリスボン北西の小さな町にある宮殿建築だ。ポルトガル王ドン・ペドロ3世と妃の夏の離宮として、18世紀に建てられた。フランス宮廷からヨーロッパへ流行した優美なロココ様式のこの建物は、ポルトガルのベルサイユと言われる。



フランス人建築家によってデザインされたという庭園も見事だった。

ただ、暑い中2時間も宮殿内を見学したのでさすがに疲れがどっと出た。



8月10日

今日はもう帰国日だ。駆け足だったが、いろんなポルトガルの表情を見ることができた。日本からの直行便がないのが残念だが、いろんな魅力に満ちていた。

さほど大きな国ではないものの見どころがたくさんあり、それぞれの町の歴史や文化に興味を持った。多分訪れた人はまた来たいと思うだろう。

そして、ワインや食事がとても美味しかった。ポートワインをはじめ、各地にワインの産地がある。食事も魚介類のリゾットやスープ、カタプラナ(鍋料理)、アローシュ・デ・パット(鴨の炊込みご飯)、エッグタルトなどなど・・・。

5日目には夜ファドを聴きに行った。ファドは「運命」を意味する言葉で、人生の悲しみやせつなさ、郷愁などを歌う。

それらを写真で紹介しながら、今回の旅の便りを終えよう。(完)



2016年10月28日